

んです。私の場合は、社協さんのほうから連絡がくるとほっと安心しましたね。社協さんの方でいついつ炊き出しが来ますよって話があると安心しました。

阿部：自分も今回の体験で色々な団体の方とお会いしましたけども、他の地での災害の時でもやはり大きい組織の方々は活動しているらしいんですよ。そういった方が実際に来ていたんだというのの後で知ったんですよ。存在を知らなかったもので。川村さんのおっしゃった、「知らない中の信頼する情報」ってのは本当にその時は重要ですよ。

松崎：同じ業種に「どう？」って聞いて、「そこは大丈夫」って言われたりね。

～気持ちが大変～

山本：個人でボランティア活動する人たちに、三重の側で1時間半くらい講習してもらってからこっちに来るんです。今はほんほんマスコットとか三重で講習をして、それでも素人が手習いでやって当日までに練習してから来てねってやるんですけども。その辺はむしろこっちの方に上手な人がいるんじゃないのという形ですとやってもらったんですね。

鈴木：それはそれでよろしかったですね。

松崎：上手下手じゃなくて、コミュニケーションと言うかそういう有難さのほうですよ。

阿部：ハンドマッサージというのも集まるきっかけとか、ふれあうきっかけだと思う。上手なハンドマッサージしてもらうために来るっていう人もまあ全員じゃないかもしれないんですけども。

川端：また保育園はまた違がったと思う。非日常のことがずっと続いて、みんな疲れ果てていて。そんな時ハンドマッサージだったり体のマッサージなどをしながら話を聞いてく



れ、心も体も癒されて、すごく良かったんじゃないかと思う。

～続く繋がり～

山本：最後にぜひ皆さん一言ずつボランティアに向けて、特にみえのボランティアに来てくれた千何百人の方々に向けてコメントを一言ずついただけると有難いなと思います。

阿部：活動自体は締めを迎える事なんですけど、まだ繋がってる感はあると思うんです。活動が終わったから、はいさよならでなく、こういう場も必要ですよ、たぶん住民の方との繋がりが出来ていると思うので、それは大事にしたいなと思います。やっぱり私たちもお礼を出来るような何か仕組みのようなものを考えなきゃというのが率直に思っていることです。だけどまだこれで終わりじゃないので。何度も言っていますけども、せっかく出来たつながりなので、ボランティア活動だけじゃなく文化交流でもいいですよ、継続できればなど、ほんとに思うんですね。ありがとこの意味、思いをこめて。

川端：みえ隊の方々ともたくさんさんの貴重な出合いをさせていただきました。保育園の場合は調理補助・行事の準備・草取り・園児と遊ぶ・大掃除：とにかくたくさん手伝っていたできました。私たちがただだったら本当に寂しい毎日だったと思いますが、皆さんがワイワイやって来て、とても賑やかな、楽しい日々を過ごすことが出来ました。みえの方々、遠いところ何度も何度も来ていただき、たくさんのご支援をいただきました。本当にありがとございます。

鈴木：ちょうど仮設が行き渡った頃みんな外に出てこなかったんです。みえのボランティアの色んな方が色んな催し物を持ってきて、皆さんが外に出てくれるようになってくれましたね。それから今はみんな明るく普通に出来るようになってきました。それももう本当に私たちもう嬉しかったんです。本当に感謝しています。ありがとございます。

川村：まだまだいつ復興するかちょっと見えていないのですけれども、いつかしっかりと復興した姿を見せるのが今の全

てのボランティアの方々に対する恩返しなのかなと思いますので、きっちり復興したいなと思います。ありがとございます。

竹内：いろいろな趣向を凝らした支援をしていただいた仮設の人達が、いっぱい外に出てくるようになったので素直によかったと思って感謝しています。ありがとございます。

松崎：正直に言うと、これから住宅再建が始まる。これから第2弾の勝負なんです。これで終わりだというのがちょっと寂しい部分もあって、みえさんがボランティアをしたっていうことを残す意味でも1年に1回でも来るようにすると山田町を支援していただいたものがずっと見えるんじゃないかなと思うんです。ここでぶつと切れてしまうと、今までしてくれましたとても感謝していますけど、それが津波と同じように風化してしまうと思うんです。今までみたいに頻繁になるわけではありませんが、お祭り前に来てボランティアをしてからお祭りを見てもうとかね1年に1回くらいはそういうのを企画してずっとこう繋がってもらえる事が希望かな。

山本：ありがとございました。色々教えていただいて、きつとそうだろうなと思っていたところ、意外にそこが大事だったんだなって思ったところ、色々ありました。ここで終わってしまうということに對するご不満も重々心に思っています。また私たちも本当にもうちょっと続けたかったという思いを持っています。

逃がさんぞというメッセージを受け取ってこの座談会を終わりたいと思います。本当にありがとございました。

【平成25年8月6日】



が次にくる。

山本…誰かが知っている、信頼している誰かの紹介というのは、やっぱりまずは信頼しやすい。
全員…うん、そうですね。

↳ボランティアの活動内容

山本…あと信頼するに至るまでの事で、他の団体さんとか思い浮かべていただいで欲しいのですが。

竹内…何回も来てくれる人たちがいますね。1回きりの活動とか結構あったんですけど、何回もまたここでやりたいたいという声があります。

松崎…活動した所によって仮設の人と信頼関係が出来るように調整したり。

竹内…1回入って顔を覚えてもらい、また来たとき「この前来た人たちだよな」という風になってそれが定着している。

山本…1回来てくれたボランティアさんより繰り返し来るボランティアさんのほうが喜んでもらえますか？それは活動内容よりも。

竹内…内容のほうが重視になってきていますね。なんでも来てくれるとありがたいのですが、今はみんな色々出来るようになったので、もつとこんなやりたい、あんなのやりたいと言う要望が出るようになってきています。

松崎…みえさんは、みえ災害って一つになっていても内容が結構濃かった。というかそういう方達が色々な分野に育ったので内容はすごかったです。同じボランティア活動で、何回も来ることはあるけどみえさんは内容は濃かったですね。

↳これからつくり上げていくもの

阿部…例えば三重県で災害がなければいいのですが、もしあった場合こっちから恩返しという訳ではないですけども、行きたい人たちが何を知っていなきゃいけないのか、どういう流れでやるのか、またそれを支える体制がどうあるのか。

その防災の意識とボランティアの意識というのが、これから作っていかなくちゃいけないと思うんです。まだそこまで至ってないんですけれども。絶対そういうの。

松崎…今、復興は住宅再建が先で動いていますけど、そうやってくると10年先の事になると

思うんですよ。それから、3月11日を考えようとしたって忘れてしまう。だから今のうちそついうの作らなくちゃならない。

鈴木…忘れないようにしているからね、あの日の事は。

阿部…町にも、地域防災計画ってあるじゃないですか。自分たちでどんなことが出来るんだらうかというのを考える場も必要であるのかなあ。

↳ボランティアって何？

川端…最初「ボランティアって何？」って本当に思っていました。「いいですよ、とんでもないです」って感じで。地域の人たちもそのようでした。ところが日々大変になってきて、お願いしてみようという気持ちになったようです。阪神淡路大震災の時、自衛隊や警察官などの活躍を見てきた人達がボランティアとして沢山入ってくれました。山田の人達はボランティアに対する認識が全然なかったと言っていました。

松崎…ボランティアは難しいですね。あまりボランティアがやってくれるとその住人を…なんでしょね。

鈴木…その分やる気がなくなる？

松崎…たとえば今そこに草がっぱい生えているとします。自分一人だとこの位かかるのに、ボランティアさんがきて一緒にやれば半分ですむ事、それがボランティアになるかなと思う。ところが、今までもそうだったかもしれないですけど、ボランティアの仕方がなんとなく私はちょっと違うんじゃないかなと思う。たまにやるのがボランティアなんです。大



鈴木聖一さん

変なところを手伝ってもらうのがボランティアです。自分たちがやって頂戴っていうのじゃなくて、一緒にやるのがボランティアじゃないかな。でも最初の避難所とか、避難所の時はしようがないかなと思うんです。

川端…どんどん変わるからね。

松崎…うん。ずーっと同じボランティアの考え方ではない。ボランティアって時期時期で活動の内容が違う。最初的时候は疲れているから、たしかにおんぶにだっこしたいけど、時期時期じゃあ一緒にやりますかって感じになると、それに慣れてしまつて。

阿部…時期時期というのが正直難しいですね。悩んで悩んで色々聞いて、暗中模索な感じでやってきました。やっぱりその時期の変わり目というのが今だから言えることで、当時はわからなかったです。これを絶対忘れないうちにまとめないといけないというのがありますが、自分が一番知りたいのは、避難所運営されていた方のタイミングだった。そういったところからボランティア活動って絶対来ると思ってた。今回みたいにこう押し寄せてくるというぐらいの感じで、そこを受けている人に、うまくマッチするような感じっていうのがやはり、検証しなきゃならないという時期にきているのかなと思います。やはりみえのみなさんも活動が終わるっていうのが、今後どうなるのかと正直心配ですけど、やはり地域貢献というか、地元の人もまじえて今ボランティア活動しているので、そつちを強くしていかなきゃならない。

↳知らない中の信頼する情報

川村…避難所にいる時ですが、毎日毎日直接来るんです、避難所に物資支援やりたいですとか炊き出しをやりたいですとか。その人たちの情報がない中で入れ替わり立ち代わり来られても誰も信用していいかわからない



川村聡さん